

「シーガー使って今日も快釣」

鈴木新太郎のワンポイントアドバイス

★鈴木さんの仕掛けは「シーガー」の3号。「さばきやすいシーガーを使うことで仕掛けが絡まりにくくなり、快適に釣ることができます。アマダイは砂底で釣るため根ズレの心配もほとんどありません。グランドマックスほどの強度がなくても十分です」。



●シーガー 60m巻
0.4~30号まで26アイテムを用意。価格は1600~1万5000円(税別)

ハリスと親子サルカンの結びは移動結び。「端糸が横を向かず本線に重なるためトラブルが少なく、オマトリしたときもほどこきやすいです」と鈴木さん。



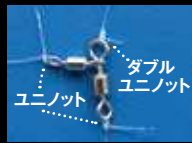
女良圭佑のワンポイントアドバイス

★女良さんの仕掛けは「シーガー FXR 船」の3号。「シーガーシリーズの中で最もなやかで、衝撃強度が優れており、結節強力、伸長率のバランスがアマダイの引き込みに最適です。二重構造のハリスなので表面が傷付いても切れにくいのが特徴で、アマダイやゲストにハリを飲まれることが多い釣りではおすすめです。ハリスと親子サルカンの結びはユニノット。「簡単に結べるので交換が楽です」と女良さん。



●シーガー FXR 船100m巻
2~20号まで14アイテムを用意。価格は3200~8400円(税別)

ダブルユニノット



▲鈴木さんは0.5キロ級のマダイをキャッチ



▶アタリが遠いときは誘いを入れるのも有効



▲定番ゲストのソコイトヨリ。天ぶらがおすすめ
◀アマダイ釣りのゲストでは珍しい2キロ級のトラフグ



★終盤に本命を釣り上げた鈴木さん
▼釣り場は茅ヶ崎沖の水深70~100メートル前後

Challenge #71 相模湾平塚港出船のアマダイ

★女良さんは35センチ級のアマダイをキャッチ



釣れる釣れる釣れる
釣れる釣れる釣れる
釣れる釣れる釣れる



鈴木新太郎、女良圭佑 相模湾のアマダイを楽しむ

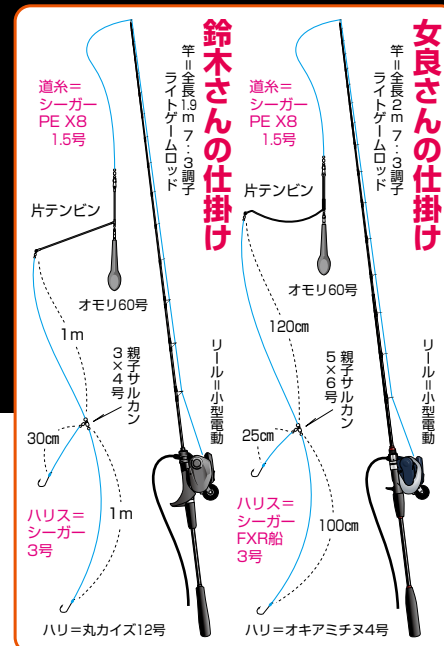
●冬の相模湾では好シーズンに突入り、良型交じりで楽しめるアマダイが盛況。今回は鈴木新太郎さんと女良圭佑さんが人気魚アマダイを狙いに茅ヶ崎沖へ釣行した模様をお届けしよう。



●片テンビンの2本ハリ仕掛けにオモリ60号を使用
▶付けエサはオキアミ。回転しないよう真っすぐ付ける



●相模湾茅ヶ崎沖は江ノ島や富士山などの絶景が楽しめる
★2人が使用した道糸はシーガーPEX8 1.5号。ハリスは鈴木さんがシーガー3号、女良さんがシーガーFXR船3号



▶擦れに強いシーガーFXR船ならハリを飲まれても安心
▼置き竿に食ってきた30センチ級のアマダイ



▲当日最大47センチ。茅ヶ崎沖では50センチ級も釣れている

半の沖揚がりとなった。この日は全般的に食いは今一つで、鈴木さんが1尾、女良さんが3尾。釣果は25~47センチのアマダイを1~5尾、マダイ、トラフグ、ソコイトヨリ、キダイ、ヒメジ、アジ、ヒメコダイ、オニカサゴ、ムシガレイなどが交じった。「松笠揚げが楽しみです」とアフターフィッシングに期待を寄せる2人だった。

乗船したのは相模湾平塚港の庄治郎丸。左舷ミヨシから女良圭佑さん、鈴木新太郎さんの順で並んで座り、タックルの準備に取りかかる。オモリ60号のテンピン仕掛けで、2人の自製仕掛けは全長2.2メートル。
鈴木さんのハリスは、「シーガー」3号。「フロロカーボンの定番ハリスです。アマダイ釣りは砂底を狙うため根ズレの心配もありません。シーガー製品なら十分通用するはずですよ」。
一方の女良さんは「シーガーFXR船」3号。「潮になじんでアタリを待てるシーガーシリーズ最高のしなやかさを持つFXR船にしてみました」。
準備が整ったところで6時半に出船。15分ほどで茅ヶ崎沖の水深70メートル前後に到着。船長の合図で投入となる。開始早々に右舷ミヨシの方にアタリがきて25センチ級を取り込むと、同ミヨシ2番の方も同サイズと続く。その後は潮が緩んでアタリが遠のいたため水深80メートル前後へ移動となる。
鈴木さんは底から50センチにタナを取り、船の揺れで時折オモリが底をたたくようにしてアタリを待つ。女良さんは底から1メートルほどオモリを上げてしばらく待つてからゆっくり聞き上げています。
先に竿を曲げたのは鈴木さん。強い引き込みが繰り返され、やがて上がったのは0.5キロ級のマダイ。
続いて女良さんにもアタリ。巻き上